

平成 27 年度第 2 回
伊万里地区新高校
設置準備委員会
(資料)

平成 27 年 7 月 31 日
佐賀県教育委員会

目次

	頁	
資料 1	新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画 (第1次) 第1回新高校設置準備委員会報告まとめ・・・・・・・・・・	1
資料 2	めざす学校像・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
資料 3	伊万里地区の学科の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
資料 4	新高校の学科構成について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13
資料 5	新高校設置準備委員会設置要領・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	22
資料 6	伊万里地区新高校設置に向けた検討体制・・・・・・・・・・・・・・・・	24
資料 7	伊万里地区新高校設置準備委員会委員構成・・・・・・・・・・・・	25

資料1 新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画（第1次）

第1回新高校設置準備委員会報告まとめ

1 開催日時・場所等

地区及び再編対象校	開催日時・場所	委員
杵島地区 ・ 白石高校 ・ 杵島商業高校	平成27年 5月26日（火） 10時～11時25分 白石高校 同窓会館	学校関係委員 4人 地域関係委員 12人 県教育委員会関係委員 8人
伊万里地区 ・ 伊万里農林高校 ・ 伊万里商業高校	平成27年 5月27日（水） 15時30分～17時 伊万里農林高校 視聴覚室	学校関係委員 4人 地域関係委員 7人 県教育委員会関係委員 8人
唐津地区 ・ 厳木高校	平成27年 5月28日（木） 9時30分～11時 厳木高校 同窓会館	学校関係委員 3人 地域関係委員 5人 県教育委員会関係委員 9人
嬉野地区 ・ 塩田工業高校 ・ 嬉野高校	平成27年 5月28日（木） 15時～16時30分 塩田工業高校 視聴覚室	学校関係委員 4人 地域関係委員 10人 県教育委員会関係委員 8人
鹿島地区 ・ 鹿島高校 ・ 鹿島実業高校	平成27年 6月1日（月） 15時～16時35分 鹿島高校 同窓会館	学校関係委員 4人 地域関係委員 11人 県教育委員会関係委員 8人

2 主な意見等

地区	主な意見等
杵島地区	<ul style="list-style-type: none"> 校舎制は初めての取組でイメージがわきにくいですが、先進的な事例も踏まえた具体的な提案をお願いしたい。 新高校に関する議論と並行して、現在の杵島商業高校、白石高校の生徒の今後に関して、意見を言う場を作ってほしい。 全国と比べて、佐賀県は普通科の比率が低い。グローバル化や産業技術の高度化への対応において、基礎基本の学力の重要性を踏まえて新高校を作ってほしい。 今までにない夢のある学校、生徒が集まるような学校をイメージしてほしい。
伊万里地区	<ul style="list-style-type: none"> 両校を合わせれば、他に類を見ない、おもしろい学校になると思う。卒業生がなるべく地元に残るような実業高校ができればと思う。 単位のとり方について、商業科の生徒が農業科の事も学べるようなカリキュラム編成ができれば、（新高校としての）個性が出せると思う。 人材育成については、地域ニーズを分析することが必要である。 進学する高校を選択するときに、部活動で選ぶ子どももいる。再編によって部活動の選択幅がひろがるのではないかな。

地区	主な意見等
唐津地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校は卒業後の進路保障が大事である。太良高校のようにキャリア教育の推進に重点的に取り組む必要がある。 ・ 地域に根ざした学校に、地域住民がどういった手伝いができるか、その方向性を検討する必要がある。 ・ 発達障害の生徒を指導できる教員の育成も重要である。 ・ 参考とするために、既に取り組を行っている太良高校を視察させてもらいたい。
嬉野地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 再編後、更に定員が1クラス減ることを踏まえたビジョンが必要だ。 ・ 再編後の学校を新しい学校としてみてもらわなければならない。校舎制により、足して2で割るのではなく、両校が合わさることでの相乗効果を求めている。 ・ 例えば、工業系列を持つ校舎制の総合学科で、部活動はそれぞれの校舎で分けて実施するとし、市はこれに対して支援を行うというような構想を作っていければと思う。 ・ 地域創生の時代であり、地域の特性を生かし、地域人材を育成できればと思う。
鹿島地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新高校の1クラスの定員を、少人数クラス編制にすることは考えられないか。 ・ 両校の目標である進学と就職両面の充実をいかに図っていくかが最重要事項である。その上で学校としての整合性を保たなければならない ・ 「当面、校舎制」とあるが、できるだけ早く1つの校舎で学ばせてほしい。人間教育にもつながる。 ・ (高校受検で) 学科ごとに第1、第2希望と選べるならば、生徒の選択の幅が広がる。部活動も、質・量ともに充実し、魅力となる。

資料2 めざす学校像

1 第1回伊万里地区新高校設置準備委員会（平成27年5月27日）での主な意見

めざす学校像について

- 両校を合わせれば、おもしろい学校になると思う。第1次、第2次、第3次産業という視点から、他に類を見ない学校づくりができると思う。卒業生がなるべく管内に残るような、伊万里の実業学校ができればと思う。
- 総合高校（総合学科）にはできるのか。学科について詳しく知りたい。
- 両校の教育目標はほとんど変わらない。単位のとり方について、例えば商業科の生徒が農業科のことも学べるカリキュラム編成は可能か。そうすれば個性が出せると思う。
- 地域のニーズを分析することが必要である。
- 子供たちは中学校から高校を選ぶときに、「〇〇部に入りたいから」とか「△△部が強いから」という選び方をすることもある。

キーポイント

6次産業化 学科の枠を超える 地域のニーズ 部活動

2 両校の比較

(1) 教育目標等について

伊万里農林高等学校	伊万里商業高等学校
<p>○綱領</p> <p>第一条 至誠一貫、いやしくも表裏の行為あるべからず</p> <p>第二条 勇気を養い、忍耐を重んじ、もって勤労の習慣を養成すべし。</p> <p>第三条 自治自動の精神を発揮し、敢為進取の気象を養成すべし。</p> <p>第四条 儉素身を持し、協同事に従い、常に規律を遵守すべし。</p> <p>第五条 衛生を重んじ、運動を励み、もって心身を鍛錬すべし。</p> <p>○教育目標</p> <p>知・徳・体の調和のとれた人格の形成の完成を目指すとともに、農業・林業教育を通して勤労観・職業観を育み、社会に貢献できる人材を育成する。</p>	<p>○校訓 「挑・研・創」</p> <p>(1) 創立115年の輝かしい伝統の上に立って、人を愛し、礼節を守り、勤労と責任を重んじ、奉仕の心を自覚し自主独立の精神に充ちた心身ともに健康な人物を育成する。</p> <p>(2) 明るい学校生活の中で、生徒一人ひとりが知識と技能を磨き、有益な社会人としての資質を向上させる。</p> <p>○教育目標</p> <p>生徒一人一人の「生きる力・生き抜く力」を育み、経済社会の変化に十分に対応しうる、社会人・商業人としての資質（知識・技能）を身につけさせ、社会に貢献できる心身ともに健全な生徒の育成を目指す。</p>

両校とも『H27 学校要覧』による

<教育目標等キーワード整理> 網掛けは共通項。

	伊万里農林高校	伊万里商業高校
人材面	自治自動の精神	自主独立の精神
	勤労	勤労
	社会貢献	社会貢献
	徳 協同事に従い、規律を遵守	人を愛し 礼節を守り
	至誠一貫	
	忍耐	
	儉素身	
		生きる力・生き抜く力
		奉仕の心
		挑・研・創
心身面	体 心身を鍛錬	心身ともに健全
知識面	知	知識・技能
産業面	農業・林業教育	商業人

- (2) 長期経営計画における学校経営ビジョンについて
(両校とも『H27 学校要覧』による。下線部は共通項。)

【伊万里農林高校】

「飛躍する伊農林」をスローガンとし、全職員が一丸となって、活気と活力に満ちた魅力ある伊万里農林高校を創っていく。生徒が「来てよかった」、保護者が「やって良かった」、職員が「勤めて良かった」、地域が「必要である」と言われる学校を確立する。

- ① 学業の充実：学ぶ意欲を培い、確かな学力を身に付けさせる。
- ② 基本的な生活習慣の確立：さわやかな挨拶・さわやかな態度・正しい言葉遣い・時間厳守を身に付けさせる。
- ③ 部活動・ボランティア活動の活性化と強化：体力や技術、協調性を養い、心と個性を磨き、心身ともに逞しく育てる。
- ④ 開かれた学校：保護者・地域・同窓会に信頼される学校

【伊万里商業高校】

創立 115 年の歴史と伝統のもと、『挑・研・創』の校訓を基調に、人間性豊かな生徒を育成する。

- ア. 基本的な生活習慣やマナーの指導・充実を図り、地域から信頼される生徒づくりに努める。
- イ. 自ら学び・考える意欲と態度を育み、学習の習慣化を図り、夢実現に向けた指導に努める。
- ウ. 専門教育の充実を図り、将来を担うスペシャリストの育成に努め、有為な商業高校を目指す。
- エ. 校内美化の徹底を図り、公共物や自然を大切にする心を育みながら、国や地域を愛し、社会に貢献できる人材育成に努める。
- オ. 特別活動、部活動を充実させ、自主的活動をとおして、お互いを認め合い、命を大切にして、いじめのない学校環境づくりと豊かな人間性の育成に努める。

3 めざす学校像のイメージ案

(1) キーワードの整理

【人材育成（生徒）】

- 自立・自動、徳、勤労の精神、至誠、忍耐力
- 心身の健康、知識・技術の習得

【地域・社会との関係】

- 社会貢献・地域貢献

【その他】

- 学科の枠を超える

(2) めざす学校像（案）

(1案)

《キーセンテンス》

- ・ 至誠・礼節の心を持った、個性溢れる人間性豊かな生徒を育てる学校
- ・ 産業人としての資質（知識・技術）を身につけ、社会のリーダーとなる生徒を育てる学校
- ・ 勤労と奉仕の精神に溢れ、協調性に富んだ心身共に健康な生徒を育てる学校
- ・ 地域を愛し、地域に学び、地域に信頼される生徒を育てる学校
- ・ アクティブラーニング：体験的・実践的な教育



健全な心身の発達と至誠・礼節の心を持った、個性豊かな人間性の涵養を図るとともに、体験的・実践的な教育を通して専門に関する多様な知識と技術を身につけ、地域を愛し、地域に貢献する勤労精神に溢れた人物を育成する学校。

(2案)

○人間としての生き方と在り方の観点から

- 1 心身ともに健やかで、情感豊かな心を育む学校（心の教育）
- 2 至誠・礼節・勤労および自他への敬愛を重んじる態度を育む学校（自主自律）

○生涯教育とキャリア教育の観点から

- 3 生徒一人ひとりが知識と技能を研鑽し、社会人としての資質と創造力を育む学校
- 4 個々に応じた進路指導の充実と多様な進路実現を図る学校

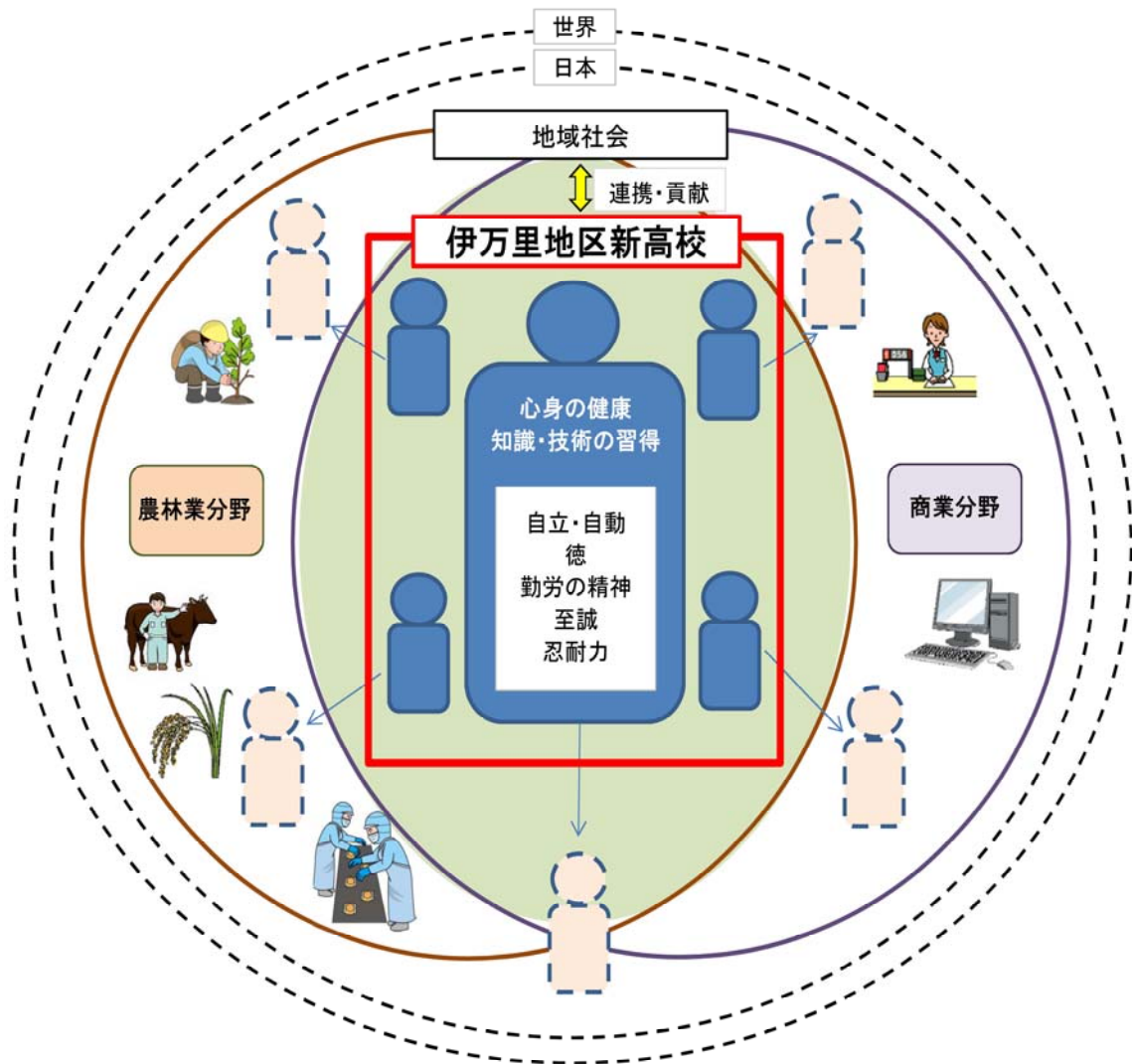
○地域連携の観点から

- 5 地域に学び、地域に信頼され、生涯に渡って地域社会に貢献する人材を育む学校

(3案)

心身の健康増進と、至誠・礼節・忍耐を重んじる人間性の涵養を図るとともに、専門に関する多彩な知識と技術を身につけ、生涯に渡って地域社会に貢献し得る、勤労の精神に溢れた人物を育成する学校。

めざす学校像から考えられる新高校のイメージ図



【参考】他県の高等学校の事例

熊本県立阿蘇中央高等学校

- 1 沿革 H22.4 阿蘇高等学校（普通科、商業科）と阿蘇清峰高等学校（生物科学科、林業・農業土木科、社会福祉科）が統合。

2 学科と募集定員（校舎別）

学科	H27 募集定員（人）	校舎
普通科	120	阿蘇校舎
総合ビジネス科	40	
農業食品科	40	阿蘇清峰校舎
グリーン環境科	40	
社会福祉科	40	
合計	280	7学級/学年

3 教育目標等

○校訓 「岳（やま）を仰ぎ 大志を抱き 未来を拓かん」

○教育目標 阿蘇の大自然のもと、互いに切磋琢磨し、素直な心と豊かな人間性を養い、幅広い知識と教養を身に付け、将来を担う高い資質と誇りを持った人材を育成する。また、県下唯一の校舎制であることを踏まえ、両校舎の特性を最大に活かした教育活動を実践し、両校舎に学ぶ生徒の交流を促進し、母校愛の醸成を図る。

○目指す生徒像

- ・ 阿蘇校舎、阿蘇清峰校舎で培われた伝統を誇りとし、郷土への愛情と母校愛に溢れる生徒。
- ・ 将来の目標に向け、意欲的に学び、社会の有為な形成者たらんことを希求し続ける生徒。
- ・ 他を思いやる心に溢れ、豊かな人権感覚を身につけた生徒。

徳島県立吉野川高等学校

- 1 沿革 H24.4 阿波農業高校（農業科学科、園芸科学科）と鴨島商業高校（商業科、経営情報科）が統合。

2 学科と募集定員

学科	H27 募集定員（人）
農業科学科	25
生物活用科	20
会計ビジネス科	25
情報ビジネス科	30
食ビジネス科	30
合計	130

3 教育目標等

(1) 学校教育目標 知、徳、体の調和のとれた教育を推進し、誠実で探究心、創造力に富んだ、心身ともにたくましい人間を育成する。

(2) 学校教育方針

- ① 一人ひとりの個性や能力を伸ばす教育を行い、夢の実現に向けて努力する生徒の育成に努める。
- ② 豊かな人間性や共生の心を培い、人権を尊重し、民主的で自他の敬愛と協力を重んずる精神の育成に努める。
- ③ 農業・商業にかかわる幅広い産業に対応した実践力を身に付け、地域の発展に貢献できる職業人の育成に努める。

資料3 伊万里地区の学科の状況

1 配置

伊万里地区の学科及び募集定員（440人 11学級規模）

普通科 200人（5学級規模）

（伊万里高校 200人）

専門学科 240人（6学級規模）

（農業科：伊万里農林高校 120人、商業科：伊万里商業高校 120人）

【農業科、商業科の全県配置】



2 伊万里地区の高校別志願状況

地区	学校名	H22入学生			H23入学生			H24入学生			H25入学生			H26入学生			H27入学生		
		9月	11月	後期	9月	11月	後期	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般
伊万里地区	伊万里	1.01	1.02	1.05	0.98	0.95	1.00	0.91	0.90	0.91	1.11	1.13	1.11	1.10	1.07	1.03	1.06	1.02	1.03
	伊万里農林	1.15	1.10	1.06	1.38	1.29	1.41	1.18	1.11	1.21	1.50	1.28	1.23	1.14	1.19	1.23	1.22	1.15	1.26
	伊万里商業	1.08	1.18	1.24	1.24	1.32	1.38	0.93	1.09	1.01	0.98	1.13	1.32	1.09	1.11	1.19	1.09	1.13	1.01
西部学区計		1.07	1.07	1.10	1.03	1.03	1.07	1.08	1.08	1.09	1.07	1.08	1.13	1.07	1.06	1.05	1.02	1.01	1.05

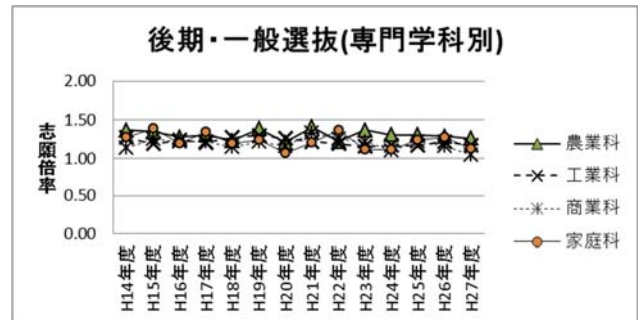
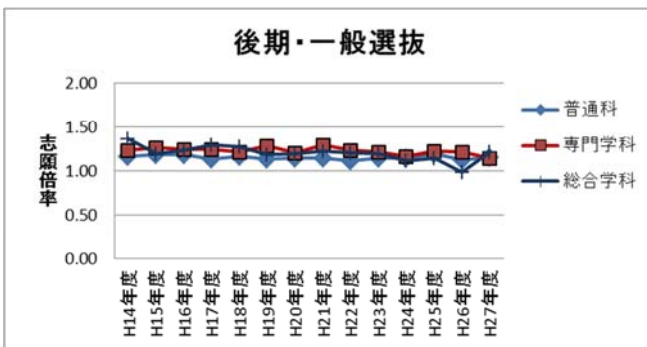
※網掛けは1.00倍未満

※後期(または一般)倍率は、志願変更後の倍率である。

【参考1 県全体の学科別志願状況】

後期・一般	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
普通科	1.11	1.14	1.14	1.19	1.12	1.15
専門学科	1.23	1.21	1.16	1.22	1.21	1.14
農業科	1.22	1.37	1.31	1.31	1.29	1.26
工業科	1.19	1.16	1.17	1.17	1.22	1.17
商業科	1.25	1.22	1.10	1.22	1.16	1.05
家庭科	1.37	1.11	1.11	1.24	1.27	1.13
総合学科	1.20	1.19	1.11	1.14	0.98	1.21
県立全体	1.16	1.17	1.15	1.20	1.15	1.15

※ 理数科及び芸術科は普通科に含む。



【参考2 商業科の小学科別志願状況】

大学科	小学科	H22入学生			H23入学生			H24入学生			H25入学生			H26入学生			H27入学生		
		9月	11月	後期	9月	11月	後期	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般
商業		1.28	1.24	1.25	1.25	1.25	1.22	1.24	1.20	1.10	1.16	1.19	1.22	1.20	1.14	1.16	1.11	1.10	1.05
	商業系	1.36	1.27	1.24	1.27	1.30	1.27	1.24	1.23	1.10	1.18	1.20	1.21	1.29	1.19	1.18	1.13	1.14	1.09
	情報系	1.02	1.14	1.20	1.20	1.09	1.07	1.21	1.13	1.09	1.06	1.13	1.25	0.90	0.81	1.08	1.04	0.95	0.93
	その他	1.20	1.30	1.68															

※網掛けは1.00倍未満

※後期(または一般)倍率は、志願変更後の倍率である。

3 伊万里地区の中学生の進路状況

伊万里地区の中学生の進路状況を分析すると、7割以上が県内公立高校に進学しており、普通科は約3割、専門学科は4割を超えている。地域としてはほとんどの生徒が、地元である旧西部学区へ進学している。

伊万里地区 中卒者進路	全日制			定時制 ・ 通信制	高専 ・ 特別 支援	就職等 左記 以外	卒業 者数
	県内 公立	県内 私立	県外 公私立				
平成23年 3月卒	504 73.5	115 16.8	23 3.4	20 2.9	15 2.2	9 1.3	686
平成24年 3月卒	499 75.6	83 12.6	27 4.1	25 3.8	7 1.1	19 2.9	
平成25年 3月卒	476 71.8	107 16.1	41 6.2	16 2.4	10 1.5	13 2.0	663
平成26年 3月卒	484 74.7	75 11.6	36 5.6	22 3.4	11 1.7	20 3.1	
平成27年 3月卒	478 73.1	93 14.2	36 5.5	25 3.8	10 1.5	12 1.8	654
5年集計	2,441 73.7	473 14.3	163 4.9	108 3.3	53 1.6	73 2.2	

【上段:人数】

【下段:卒業者に対する割合(%)】

※ 伊万里農林高校及び伊万里商業高校への通学状況
ほとんどが、地元からの入学者である。

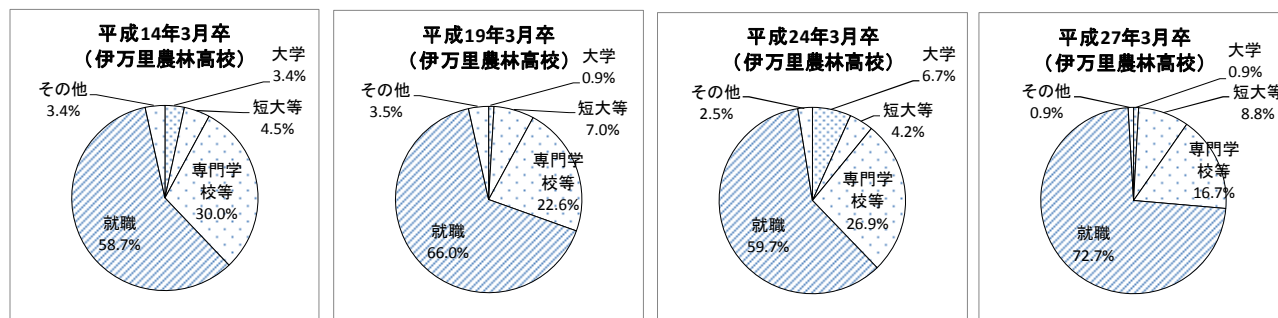
	旧東部	旧中部	旧北部	旧西部	単位:%	
					うち伊万里市	県外等
伊万里農林高校	0.2	0.2	1.0	95.0	72.5	3.7
伊万里商業高校	0.0	0.0	0.5	95.8	79.0	3.7

注)平成23年～平成27年度の高校1年在籍者の出身中学校を基に、
旧学区ごとの割合を示す。(各年度5月1日現在)

4 伊万里農林高校と伊万里商業高校の高校卒業後の進路状況

① 農業科

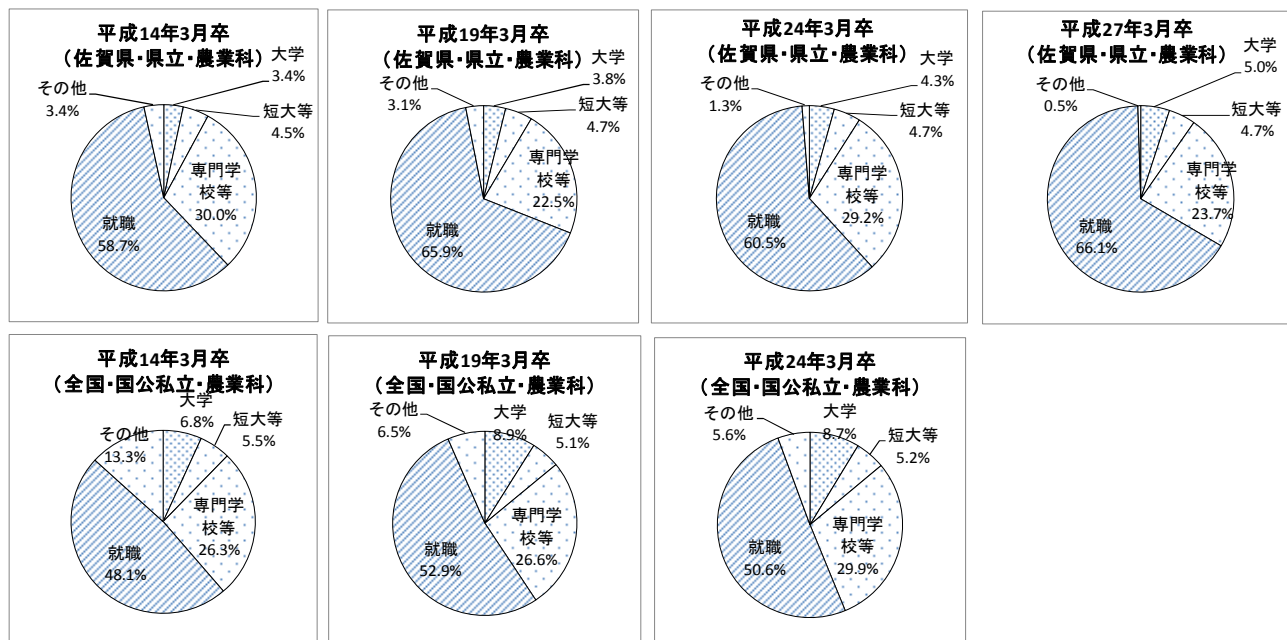
【伊万里農林高校卒業後の進路状況】



【参考 本県と全国の農業科卒業後の進路状況】

上段：佐賀県・県立・農業科

下段：全国・国公立・農業科



<H27.3 卒業生の主な進学先>

(私立) 梅花女子大学

(短期大学) 西九州短大、九州龍谷短大、長崎短大

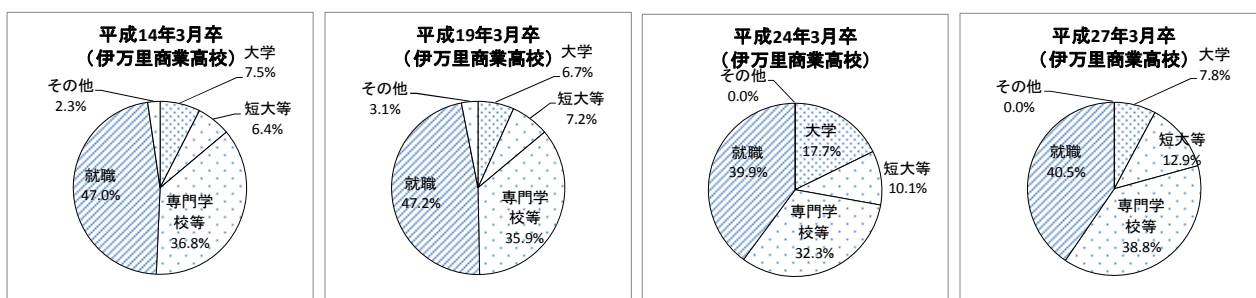
(専修学校等) 佐賀コンピュータ専門学校、中村調理製菓専門学校、佐賀調理製菓専門学校、伊万里看護学校、佐賀農業大学校

<H27.3 卒業生の主な就職先>

伊万里市農業協同組合、伊万里湾運輸、山元記念病院、伊万里有田共立病院、亀栄建材、川井産業、川原建設、黒木建設、九州内田鍛工、JA フーズさが、SUMCO、YSK九州工場、アンスコ、市丸建設、伊万里木材市場、かねは食品、(株)玄海テック、スミショー、名村造船所、ノリタケカンパニーリミテッド、フタバ九州、マツダオートザム伊万里、丸兄商社、モスフードサービス、友愛石油、佐川急便、ヤマト運輸、玉屋、モスバーガー、宗政酒造、宮島醤油、たらみ、フランソア、マツダ、トヨタ自動車、山崎製パン、リョーユーパン、若木ゴルフ倶楽部、長崎キャノン、ハウステンボス、エレナ、王子紙業、自衛隊

② 商業科

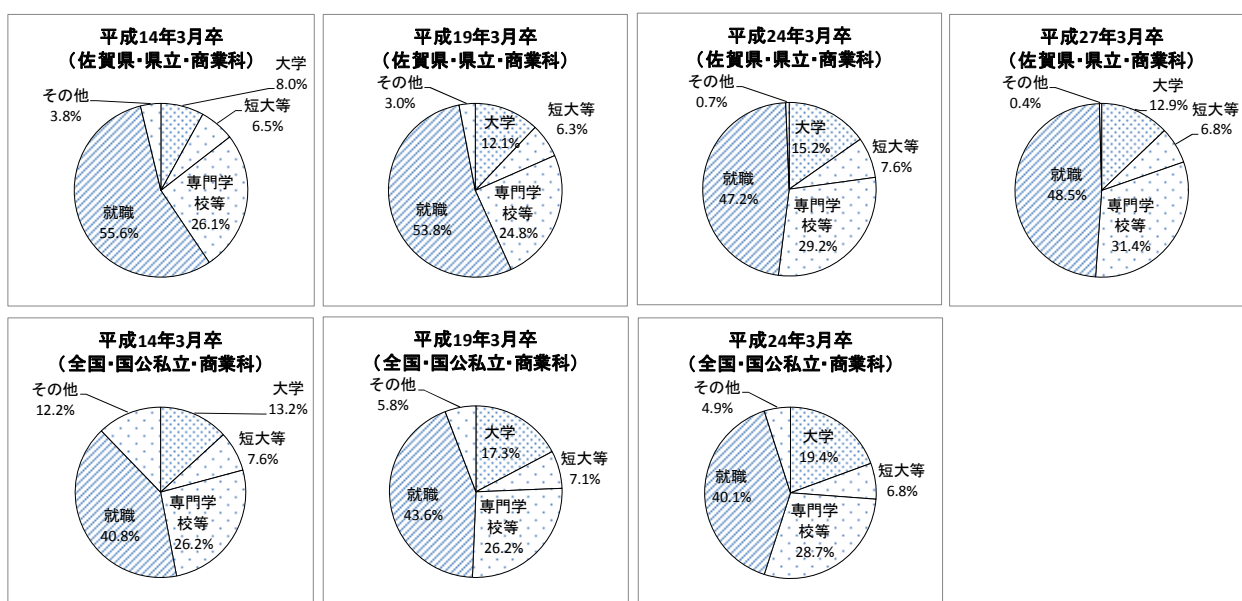
【伊万里商業高校卒業後の進路状況】



【参考 本県及び全国の商業科卒業後の進路状況】

上段：佐賀県・県立・商業科

下段：全国・国公立・商業科



<H27.3 卒業生の主な進学先>

(国公立) 長崎県立大学、兵庫県立大学

(私立) 西九州大学、九州共立大学、中村学園大学、熊本学園大学、梅花女子大学

(短期大学) 西九州短大、佐賀女子短大、長崎短大、香蘭女子短大、福岡女子短大、精華女子短大

(専修学校等) 佐賀コンピュータ専門学校、武雄看護リハビリテーション学校、緑生館、佐賀歯科衛生専門学校、麻生医療福祉専門学校、福岡看護専門学校

<H27.3 卒業生の主な就職先> 佐賀共栄銀行、佐賀西信用組合、伊万里信用金庫、山崎製パン、デンソー、日本特殊陶業、林テンプ、マツダ、昭和金属工業、JR九州、トヨタ自動車九州、ハウステンボス、佐賀県畜産公社、伊万里鉄工所、やましげ、伊万里湾運輸、SUMCO、深川製磁、西松浦通運、西田病院、エヌ・ティー、扶桑エンジニアリング、マップ・パートナーズ、アンスコ九州、アイ・エス、アイ・ケアー、前田病院、山口病院、伊万里有田共立病院、西田病院、自衛隊

資料4 新高校の学科構成について

1 新実施計画（第1次）における新高校の学科についての基本的な考え方

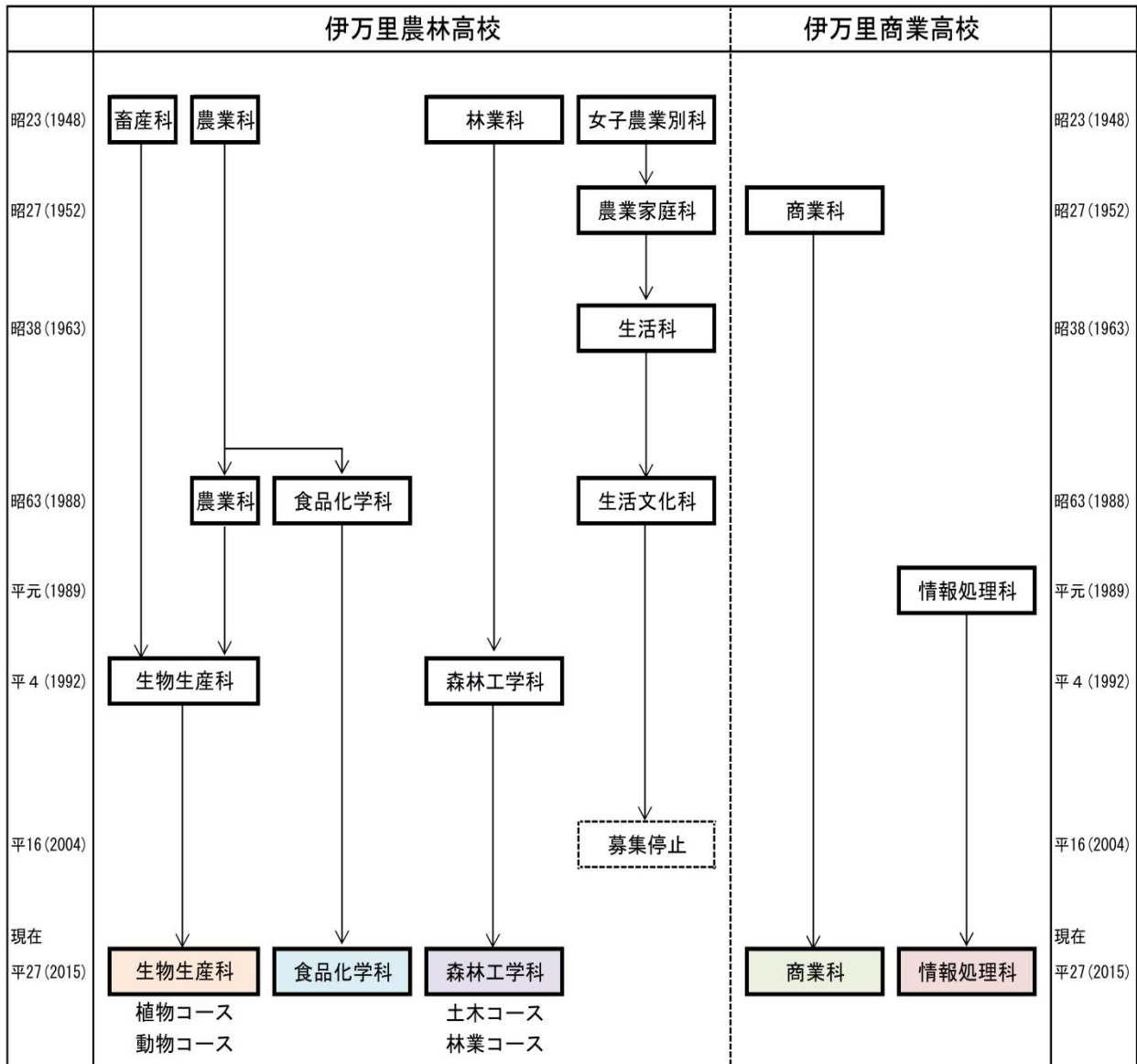
「現在の学科を基本として、地域の意見も聞きながら検討する。」こととしている。

2 学科について

(1) 現在の学科構成

伊万里農林高校	伊万里商業高校
3クラス（生物生産科1、食品化学科1、森林工学科1）	3クラス（商業科2、情報処理科1）
120名（平成18年度から）／学年	120名（平成22年度から）／学年

(2) これまでの学科の変遷（学制改革以降）



(3) 各学科の内容

生物生産科（伊万里農林高校）

- 平成4年、学科改編により農業科・畜産科を生物生産科と改称
- コース
 - <植物コース> 農業専門科目の「野菜」、「果樹」、「草花」を2年次必修、3年次は3つのうち1科目選択必修。「植物バイオテクノロジー」は2・3年次必修。また、3年次には「グリーンライフ」や家庭専門科目の「フードデザイン」を選択可能。
 - <動物コース> 農業専門科目の「畜産」は2・3年次必修。「動物科学」は2年次、「動物バイオテクノロジー」は3年次に必修。また、3年次には「グリーンライフ」や家庭専門科目の「フードデザイン」を選択可能。

食品化学科（伊万里農林高校）

- 昭和63年に新設
- 農業専門科目の「食品製造」、「食品化学」、「微生物利用」は2・3年次必修。「食品流通」については2年次必修、3年次選択可能。「食品衛生学」と家庭専門科目の「フードデザイン」は3年次に選択可能。

森林工学科（伊万里農林高校）

- 平成4年、学科改編により林業科を森林工学科と改称
- コース
 - <土木コース> 農業専門科目の「農業土木設計」、「農業土木施工」、「水循環」は2・3年次必修。「測量」は2年次必修、3年次は選択可能。また、3年次は「造園技術」と家庭専門科目の「フードデザイン」を選択可能。
 - <林業コース> 農業専門科目の「森林科学」、「森林経営」、「林産物利用」は2・3年次必修。「測量」は2年次必修、3年次は選択可能。また、3年次は「造園技術」と家庭専門科目の「フードデザイン」を選択可能。

商業科（伊万里商業高校）

- 商業専門科目の「財務会計Ⅰ」か「原価計算」のどちらかを2年次に必修。3年次は「ビジネス情報」を必修とし、「ビジネスと経済」、「経済活動と法」、「財務会計Ⅱ」、「電子商取引」は選択科目。

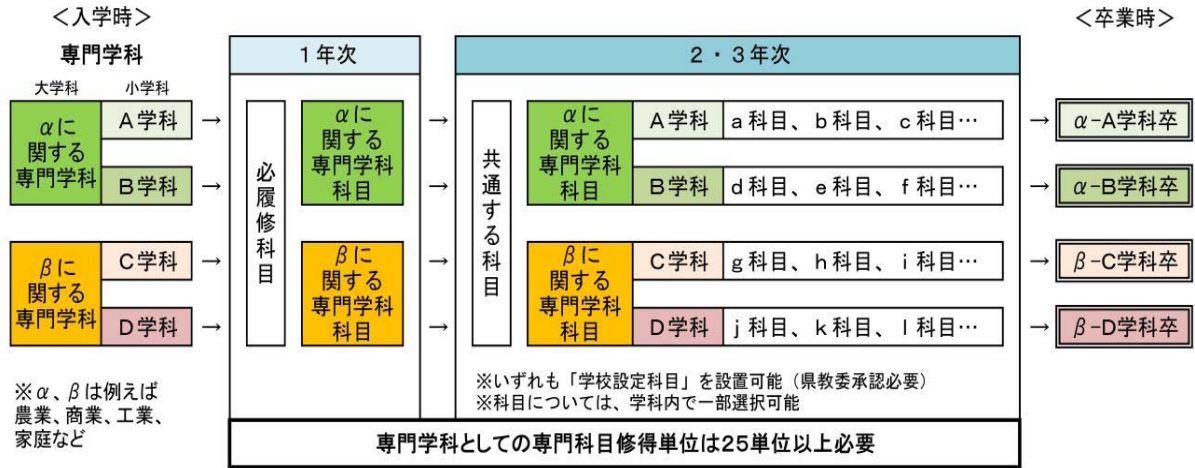
情報処理科（伊万里商業高校）

- 平成元年に新設。
- 商業専門科目の「財務会計Ⅰ」、「ビジネス情報」、「プログラミング」は2年次に必修。3年次は「電子商取引」、「ビジネス情報処理」を必修とし、「ビジネスと経済」、「経済活動と法」、「財務会計Ⅱ」、「原価計算」は選択科目。

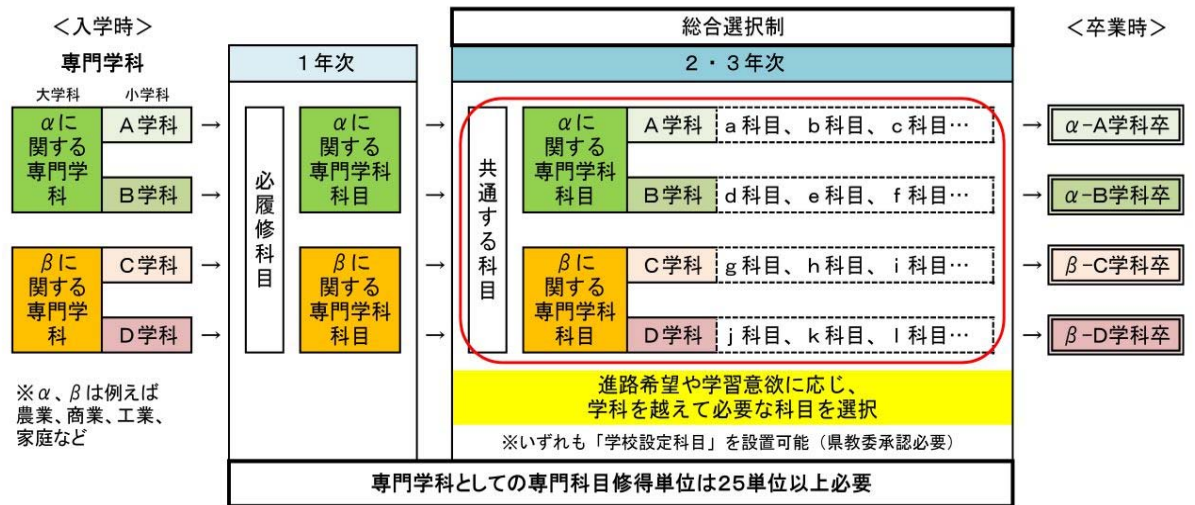
(3) 学科構成のパターン

専門学科を持つ高校

① 学科併置の場合



② 総合選択制

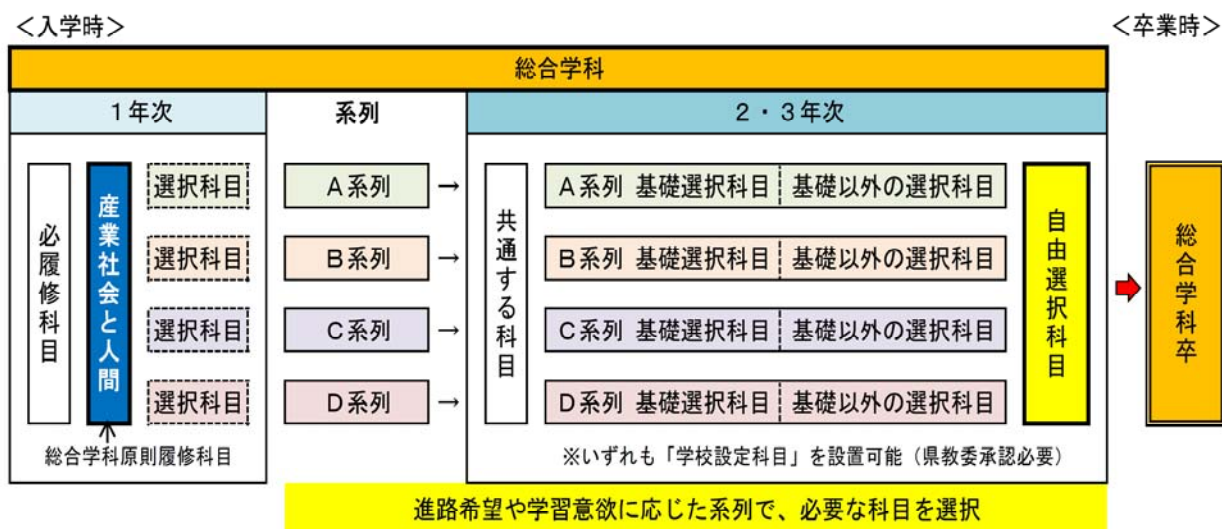


③ 総合選択制で想定されるメリットとデメリット

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ○生徒自身の興味・関心・ニーズや進路希望に応じて科目選択ができる。 ○他学科の専門科目を選択することで、幅広い知識や技術を習得できる。 ○複数の専門学科を併置する特性を生かした、協働活動や相乗効果が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○他学科の科目を選択した分、専門学科の履修科目数が減り、専門教育という面からは専門性の確保が十分にできない場合がある。 ○学科を越えた選択科目を設定することで、時間割が複雑になる場合がある。

総合学科を持つ高校

① 総合学科



② 総合学科について想定されるメリットとデメリット

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ○生徒自身の興味・関心・ニーズや進路希望に応じた学習ができる。 ○専門学科と比較して、1年次の学習を基に適性を確認しながら専門分野（系列）の選択ができることで、進路面でのミスマッチを減らすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○専門科目の学習を開始する時期が専門学科よりも遅くなることがあり、専門性が高まらない場合がある。 ○進路目的や学習目的がはっきりしていない生徒にとっては、科目選択が安易になる場合がある。 ○選択科目の設定数によっては、時間割が複雑になる場合がある。

【参考資料】

1 背景としての国の動き

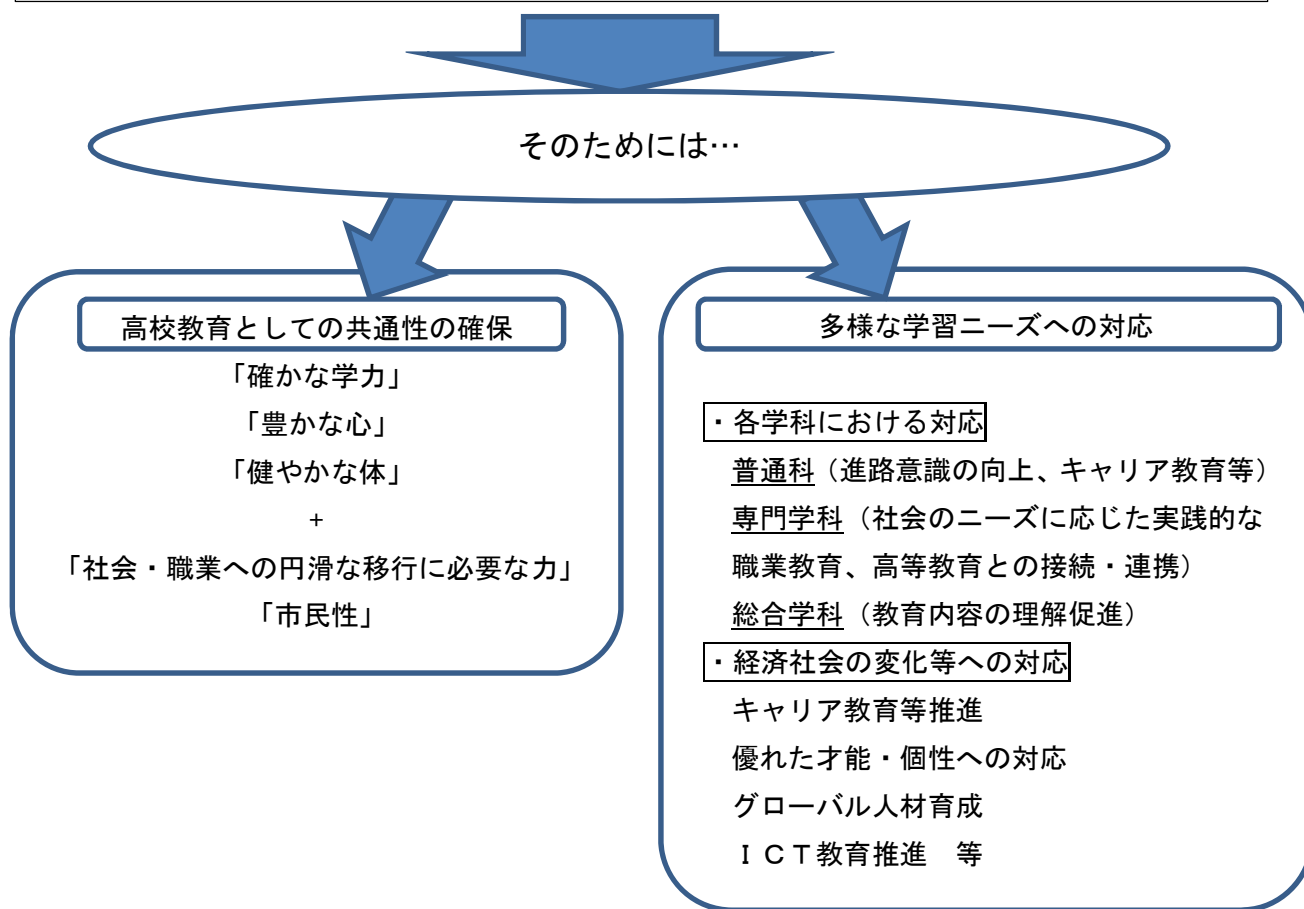
- 文部科学省から平成 26 年 6 月に出された「初等中等教育分科会高等学校教育部会 審議まとめ ～高校教育の質の確保・向上に向けて～」では、高等学校を「進学や就職といった生徒の進路にかかわらず、中学校卒業後のほぼ全ての者が、社会で生きていくために必要となる力を共通して身に付けるとともに、自立に向けた準備期間を提供することのできる最後の教育機関」とし、高校教育の質の確保・向上に関する課題・基本的考え方として、「高校教育としての共通性を確保するとともに、多様な学習ニーズへのきめ細やかな対応が必要」としている。
- 「共通性の確保」については、全ての生徒が共通に身に付けるべき資質・能力として、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和を図るとともに、高等学校では、
 - ・ 社会・職業への円滑な移行に必要な力
 - ・ 市民性（市民社会に関する知識理解、社会の一員として参画し貢献する意識など）も重視していくべきとしている。
- また、「多様な学習ニーズへのきめ細やかな対応」については、
 - <各学科における課題と対応>として、
 - ・ 普通科（進路意識の向上や、キャリア・職業教育など学校から社会への円滑な移行推進）
 - ・ 専門学科（社会のニーズに応じた実践的な職業教育推進、高等教育との接続・連携）
 - ・ 総合学科（中学校教職員・保護者の認知度向上）
 - <経済社会の変化等への対応>として、
 - ・ キャリア教育・職業教育の一層の推進（職業観・勤労観を確立するための取組推進）
 - ・ 優れた才能や個性を伸ばす学習機会の提供（ハイレベルな学習機会や切磋琢磨する場の提供）
 - ・ グローバル人材の育成（豊かな語学力・コミュニケーション能力等を身に付けた人材の育成）
 - ・ ICT 教育の推進（質の高い学びを実現するための効果的な授業の在り方の検討）等としている。
- また、次のような事業も実施されている。
 - ・ スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業
将来の国際的な科学技術関係人材を育成するため、先進的な理数教育を実施する高等学校等を「スーパーサイエンスハイスクール」として指定し、学習指導要領によらないカリキュラムの開発・実践や課題研究の推進、観察・実験等を通じた体験的・問題解決的な学習等を支援している。
本県では、致遠館高校が平成 18 年度より指定を受けている。
 - ・ スーパーグローバルハイスクール（SGH）事業
高等学校等におけるグローバル・リーダー育成に資する教育を通して、生徒の社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、もって、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を図るとしている。

・ スーパープロフェッショナルハイスクール（SPH）事業

全国の高等学校から高度な知識・技能を身に付けた専門的職業人を育成するため、専攻科を含めた5年一貫のカリキュラムの研究や大学・研究機関等との連携など先進的な卓越した取組を行う専門高校（農業・工業・商業・水産・家庭・看護・情報・福祉の8学科）を指定している。

高等学校の位置付け

進学や就職といった生徒の進路にかかわらず、中学校卒業後のほぼ全ての者が、社会で生きていくために必要となる力を共通して身に付けるとともに、自立に向けた準備期間を提供することのできる最後の教育機関



国で実施されている事業の例

- ・SSH事業（将来の国際的な科学技術関係人材育成）
- ・SGH事業（将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成）
- ・SPH事業（高度な知識・技能を身に付けた専門的職業人を育成）

2 近年の本県の学科在り方に係る検討

- 高校教育改革プロジェクト会議における検討
 - ・ 平成 23 年度 普通科に係る検討（大学受験力及び学力向上対策についての検討）
 - ・ 平成 23、24 年度 専門学科・総合学科に係る検討
（人材育成に対する企業ニーズ把握のための懇話会実施、学力向上対策についての検討）
 - ・ 平成 25 年度 キャリア教育に係る検討
 - ・ 平成 26 年度 専門学科の在り方検討（中心的な役割を果たす学校や専攻科についての検討）

- 本年度は、普通科を含む「学科の在り方ワーキンググループ会議」を開催しており、生徒減少期における学科の在り方について検討を行う予定である。

3 全国的な取組の例

<普通科等>

- ハイレベルな学習機会や場の提供を行う普通系専門学科を設置
(理数系) 理数、数理科学、応用数理、サイエンスリサーチ、メディカル・サイエンス
(文理総合型) 京都こすもす (人文社会系統、国際文化系統、自然科学系統)
(語学重視型) 国際文化、国際教養、国際コミュニケーション、国際文化情報
(芸術スポーツ系) 芸術、芸能文化、体育、スポーツ健康科学
- グローバル人材の育成
スーパーグローバルハイスクール (SGH) 事業(再掲)
国際バカロレア (日本語ディプロマ) 認定

<専門学科>

- 社会のニーズに応じた実践的な職業教育
SPH指定校の取組を例として紹介する。

【農業】福岡県立福岡農業高校

都市園芸に関する専門的な技術及び技能と経営感覚を身につけたアグリスペシャリストの育成

- ・ 大学や農業研究センターと連携し、先端技術を導入した栽培実験・実習により栽培管理技術を向上させる。
- ・ 農業生産法人及び農業関連企業において経営的な視点や自立した農業経営に必要な経営方法を学ぶ。
- ・ 「食の6次産業化プロデューサー」の内容を学習し、栽培技術の向上だけでなく生産物の付加価値を高める企画や広報の在り方を研究する。
- ・ 産業現場で必要な資格を有し、活用できる人材を育成する。

【工業】千葉県立千葉工業高校

社会や地域のニーズを踏まえ、産学官連携のもとに、高度な科学技術に対応した科学的思考力を有し、モノづくりを通じて課題を解決する工学的センスとグローバルに活躍できる生徒を育てるプログラムの開発

- ・ 応用力と工学的センスを有し、工業に関する諸課題をグローバルな視点からも考えることができる生徒の育成を目指して、下記対応策を実践し、その効果を検証する。
 - 1 高度な科学技術に対応できる力と自発力の育成
 - 2 クロスカリキュラムを活用した効率的な学習カリキュラムの編成と反転授業の実践から、思考力・判断力・表現力の育成
 - 3 大学、企業と連携した高度先進科学・技術の学習を通して、「ものづくりの心」や「工学的センス」の育成
 - 4 外国人博士研究員 (Post Doctor) や修士学生等の協力により、グローバルな視点を身に付けさせる教育の推進
 - 5 「工業系高校人材育成コンソーシアム千葉」を活用したインターンシップを実施することで、より生徒の目的意識、職業観、勤労観を育成

【商業】徳島県立徳島商業高校

Deep in Tokushima ～徳商版「地域創生」人材育成プロジェクト～

- ・ 地域コンサルタントの育成（地域のことをよく知り、様々な課題に対して柔軟に対応できる人材の育成）
- ・ 観光ガイド・商品開発力を持った人材の育成（地域の魅力を創出し、プロデュースできる人材の育成）
- ・ Glocal プロデューサーの育成（地域の魅力を世界に向けて発信できる能力を有し、人と人、企業と企業のネットワークを構築することができるグローバルなプロデューサーの資質を持つ人材の育成）

【家庭】岐阜県立大垣桜高校

CHANGE SAKURA～技と心で羽ばたけ グローバルクリエイター育成プロジェクト～

[服飾デザイン科]

グローバルな視野から服飾に関わるものづくりやビジネスを取り上げ、総合的にファッションを世界に発信していくことができるファッションビジネスリーダーやグローバルファッションクリエイターを育成する。

- ・ 地元の繊維関連企業が有する高度な技術力、デザイン力を習得
- ・ 企業と連携しオリジナルテキスタイルを制作し、オリジナルデザインの洋服の提案・商品化、ブランド化
- ・ 国内外のファッション関連学校と連携し、最先端のファッション動向を把握

[食物科]

食文化の伝承や、よりよい暮らしを支え、健康的な「食」の企画・提案を行うなどの実践的な活動を通して、地域の食文化の発展に寄与するフードクリエイターを育成する。

- ・ 産学官の関係機関と連携して食のニーズを調査・分析し、地域農産物の特徴を生かしたオリジナルレシピや、商品・サービスの開発、食生活の改善等の提案
- ・ 食産業界で活躍している専門家を招聘し、講演会や講習会を開催、産業現場実習を実施

新高校設置準備委員会設置要領

平成14年10月21日
佐賀県教育委員会教育長決定
一部改正 平成17年4月 1日
一部改正 平成18年7月12日
一部改正 平成21年4月 1日
一部改正 平成27年4月 1日

(設置)

第1条 佐賀県立高等学校再編整備実施計画に定める再編等によって設置される高校（以下「新高校」という。）の具体的な在り方等を検討するために、県立高等学校再編整備推進本部設置要綱第7条の規定に基づき、新高校設置準備委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

2 委員会は、新高校ごとに別表のとおり設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる具体的な検討を行う。

- 一 新高校の教育内容及び管理運営等に関すること
- 二 新高校の施設・設備に関すること
- 三 新高校への円滑な移行に関すること
- 四 前号に掲げるもののほか、検討を要すること

(組織)

第3条 委員会の委員は、再編等整備の対象となる学校（以下「再編等対象校」という。）の校長、教職員、県教育委員会事務局関係者及び地域関係者のうちから教育長が委嘱する。

- 2 委員会には委員長及び副委員長を置き、再編等対象校関係委員の中から教育長が指名する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代理する。
- 4 委員長は、必要と認めるときは、委員会に作業部会を設置することができる。

(会議)

第4条 委員会は、委員長が招集し、主宰する。

- 2 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者に委員会への出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(事務局)

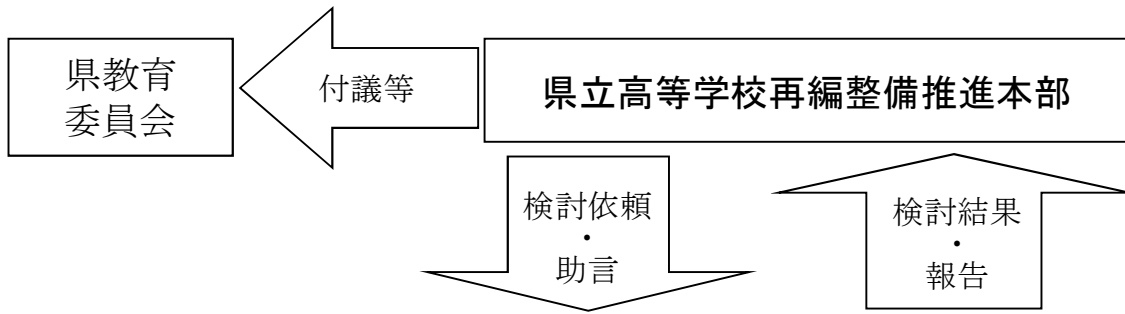
第5条 委員会の事務局は、委員長が所属する学校及び県立高校再編整備推進室に置く。

(補足)

第6条 この要領に定めるもののほか、委員会及び作業部会の運営に必要な事項は委員長が委員会に諮って定める。

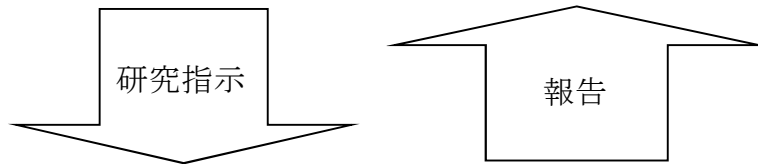
別表（第1条関係）

委 員 会 名	再 編 等 対 象 校
伊万里地区新高校 設置準備委員会	伊万里農林高等学校、伊万里商業高等学校
杵島地区新高校 設置準備委員会	白石高等学校、杵島商業高等学校
新巖木高校 設置準備委員会	巖木高等学校
鹿島地区新高校 設置準備委員会	鹿島高等学校、鹿島実業高等学校
嬉野地区新高校 設置準備委員会	塩田工業高等学校、嬉野高等学校



■伊万里地区新高校設置準備委員会（H27.4月設置）

- 委員構成
 - ・両校関係者（教職員）
 - ・地域関係者（市町、高校PTA・同窓会、中学校長代表等）
 - ・県教育委員会
- 所掌事項
新高校の教育内容及び管理運営等、施設・設備、新高校への円滑な移行等

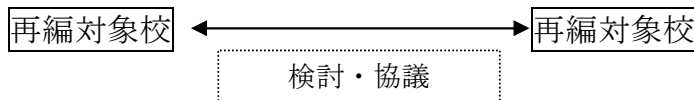


■伊万里地区新高校作業部会

- 委員構成 両校の教頭・担当者、県教育委員会担当者（事務局含む）
- 検討事項
委員会の所掌事務のうち研究指示事項



■校内検討委員会



- 検討事項
作業部会の検討事項のうち研究指示事項

資料7 伊万里地区新高校設置準備委員会委員構成

No.	所属・職名	氏名	備考
1	伊万里農林高等学校 校長	酒見 良司	委員長・学校関係者
2	伊万里商業高等学校 校長	熊谷 正実	副委員長・学校関係者
3	伊万里農林高等学校 教頭	松本 英裕	学校関係者
4	伊万里商業高等学校 教頭	円城寺 祐子	
5	伊万里市教育長	森 哲也	伊万里市関係者
6	伊万里市政策経営部長	山本 洋一郎	
7	伊万里農林高等学校 同窓会代表	岩永 康則	地元関係者
8	伊万里商業高等学校 同窓会代表	森 日出生	
9	伊万里農林高等学校 P T A代表	金子 直幸	
10	伊万里商業高等学校 P T A代表	中島 智章	
11	伊万里市立東陵中学校長	坂本 浩幸	中学校関係者
12	副教育長（教育情報課長）	福田 孝義	県教委関係者
13	教育政策課長	八谷 幸浩	
14	教職員課長	福地 昌平	
15	学校教育課長	松尾 敏実	
16	保健体育室長	三上 智一	
17	教育支援課長	源五郎丸 靖	
18	県立高校再編整備推進室 室長	甲斐 照章	
19	県立高校再編整備推進室 教育企画監	岩村 彰	
事務局	伊万里農林高等学校教諭	木村 紀元	
	伊万里商業高等学校教諭	田中 順	
	県立高校再編整備推進室 企画主幹	上赤 真澄	
	県立高校再編整備推進室 企画主査	杉本 耕一郎	